

急造の「大黒柱」が活躍

都北豊島工

球音

安打3打点の大活躍をしたのは、急造の「大黒柱」だった。

硬式野球部が発足して3年目の都北豊島工が、順天との東大会2回戦でうれしい大会初勝利を挙げた。2

マスクをかぶったのは背番号「3」の斉藤涼太君（3年）。身長183センチ、体重60キログラムのスリムな体で、

元は一塁手だ。捕手で4番打者の小林良周君（2年）が1カ月前、右足の肉離れの負傷をしたため、チームの大役を任された。

「捕手はまったくの未経験。この1カ月間、すごく大変だったけど、小林がいっつも隣で教えてくれました」

この日は8回表1死一、三塁で打順が回ると、内角の直球を振り抜き、均衡を破った。「得意なコースで、直球もねらっていました」。少し詰まったように見られた打球はぐんぐんと伸びて左翼手を越え、本塁に2人をかえした。

いまの3年生とともに部を立ち上げた大坪健太監督（27）は「やっところまで来たかど、目頭が熱くなりました」。斉藤君は「3年間で今年が一番いいチーム」と言い、次戦への自信を深めた。

〓神宮第二